

# オゾン療法研究 ニュース

統合医療の発展にむけて

連載 I では、川嶋朗先生による『お任せ医療とイクスキューズ療養』を語って頂きました。先生は補完代替医療を含めた統合医療の提供者が常に科学的に正しくある様、警告を発してこられました。連載 II ではその統合医療について概論を語って頂きます。

## 世界の統合医療事情 連載 II

神奈川歯科大学大学院統合医療学講座  
特任教授 川嶋 朗

### 統合医療 Integrative Medicine (IM) とその定義

米国の国立衛生研究所 (National Institute of Health, NIH) では IM を「従来の医学と、安全性と有効性について質の高いエビデンスが得られている補完代替療法とを統合した療法」と定義しているが、それでは統合というニュアンスは伝わらない。筆者は 2005 年から IM とは、「統合医療とは、個人の年齢や性別、性格、生活環境さらに個人が人生をどう歩み、どう死んでいくかまで考え、西洋医学、補完代替医療を問わず、あらゆる療法からその個人にあったものを見つけ、提供する医療」と定義している。言い換えれば、人を幸せにする医療、さらに言えば、死を迎えたときに人生に満足して死んでいく医療ということになる。

### 補完代替医療 Complementary and Alternative Medicine (CAM) の 歴史と近代西洋医学との関係

記録に残る記録を紐解くと、すでに古代エジプトでは患者を診るうえで脈(pulse)が重要であったことが記載されている<sup>1)</sup>

紀元前 10,000 年頃からメソポタミアではハーブが用いられていた<sup>1)</sup>。1975 年に中国青海省柳湾三坪台で発見された 4000~500 年前にあたる馬廐文化に属する土器に、亀のように息を吸って両手を腹の下にあてている人物絵が認められる。これは「神亀服気」という気功と同じである。現在確認されている中国最古の王朝である殷王朝の甲骨文字にはすでに医療に関する記述が多くみられる<sup>2)</sup>。

わが国の書物「古事記」、「日本書紀」にはすでに桃に邪鬼を防ぐ働きがあることが記されている<sup>3)</sup>。大陸からの文化の流入に伴い、5 世紀頃にはすでに薬物や医療もわが国に導入され、わが国の医療の礎となった。

このように、現在、CAM と呼ばれるものは、実は正規医療として有史以前から存在していたことになる。200～300 年ほど前から解剖学、治療学を中心とした今の近代西洋医学が台頭し、それまでの正規医療を CAM に追いやってしまった。つまり当時の正規医療は伝統医学から今の近代西洋医学に取って代わられてしまった(代替されてしまった)ことになる。実は、当時、近代西洋医学こそ代替医療であったといえるのである。

## 各国における CAM/IM の現状

伝統医療の息づく後進国にも徐々に近代西洋医学が導入されている反面、先進諸国では CAM が再認識されるに至りつつある。いくつかの先進諸国における CAM とその取り組みについて述べる。

### 1. アメリカ合衆国

アメリカ合衆国成人の CAM の利用率が 33.8%という報告を受け、1992 年、アメリカ合衆国の NIH に代替医療研究室 Office of Alternative Medicine(OAM)が設置された。さらに OAM は 1998 年に国立補完代替医療センター National Center for Complementary and Alternative Medicine(NCCAM)に昇格。2000 年には 1 億ドルの予算を計上して様々な CAM に関する研究や調査が行われている。この調査により、1990 年に 33.8%であったアメリカ成人の CAM の利用率は、1997 年には 42.1%に上昇しており、また CAM の占める医療費は西洋医学の医療費の自己負担分に匹敵するか上まわっていることが判明した。さらに CAM の利用者は教育レベルの高い人や高収入でアメリカを支えている中心層の人達に多いこともわかっている<sup>4,5)</sup>。2014 年、NCCAM は国立補完統合衛生センター National Center for Complementary and Integrative Health(NCCIH)に名称が変更された。統合という言葉が初めて登場したのである。

教育面からみても、アメリカ合衆国の医学校 125 校のうち 75 校(60%)で CAM に対する講義も始まっている。

### 2. イギリス

チャールズ国王の支援のもとに、国をあげて CAM と取り組んでおり、1 年間に 1000～1200 万人が CAM をうけている。中でもホメオパシーについては王立の専門病院や研究機関が複数ある。鍼も盛んであり、実際に行われている CAM の 45%を占めている。1994 年に発表された研究では、病院医師の 70%、開業医の 93%が CAM を推薦している<sup>6)</sup>。またイギリス厚生省は正式な医学教育をうけていない補完医療の治療家を開業医が雇うことを認めている。

### 3. ドイツ

ドイツでは、伝統医学を自然療法と呼ぶ。それは治療法がほとんど天然の材料(水、光、植物など)を応用しているためである。最近の調査によればドイツ人口の約 90%は近代西洋医学よりむしろ自然療法を選びたいと答えた。また CAM を近代西洋医学と同等あるいはそれ以上と考える医師は 63%にものぼり、70%の一般開業医はもっと頻繁に CAM を利用すべきと考えている<sup>7)</sup>。

1993 年より自然療法は全国の医学部で必須となり、国家試験にまで取り入れられている。自然療法専門医制度も確立されている。

### 4. フランス

フランスは、アロマセラピーの発祥国であり、CAM の利用率は全体の 50%以上である。フランス医師会は、1998 年 1 月、ホメオパシーを公式認知し、医学部のカリキュラムの取り入れることを発表している。

### 5. ロシア

1993年、CAMが公式認知され、1996年5月には、刺激療法、カイロプラクティック、マッサージ、ホメオパシーなど8つのCAMを厚生大臣が公式に認可し、それに伴ういくつかの規則も定められた。

## 6. オーストラリア

全人口の約1/3の人々が定期的に自然療法家の下に通っている。自然療法は学位の対象とされ、鍼は大学で教育されている。

## 7. 中国

中国では自国の伝統医療である中医学を重視し、西洋医学と組み合わせた中西医結合を国策として推進している。中医学は中国各地の中医薬大学で教育されており、中医師は西洋医学の医師と同様の医師の資格として認められている。

## 8. 韓国

韓国は韓医学を「韓医学を基礎とした韓方医療行為と、これを基礎として科学的に応用・開発した韓方医療行為」と定義し、西洋医学との二本立ての医療体制を組んでいる。1951年、韓医師制度が法制化され、2005年には韓国韓医学教育評価院が設立され、韓医学の教育の標準化と質的水準の向上を図っている。

## 9. その他

上述してきた国々以外、たとえば北欧やニュージーランドでもCAMは幅広く実践されており、信頼性の意識度も高いことが知られている。世界保健機構(World Health Organization WHO)は、発展途上国の人口の8割が、疾病の一時対策としてCAMを利用しており、142カ国を対象に実施した調査では、99カ国がCAM製品を処方箋なしで購入が可能のため、CAMがセルフメディケーションの手段として利用されているとコメントしている。

# 日本でのCAM/IMの現状

前述の国々と比較すれば、CAM/IMに関するわが国の医療政策の遅れは歴然としており、わが国はCAM/IM鎖国状態であったといわざるを得ない。しかしながら、いくつかの調査で、国民個人のCAM利用率の高いことが示されている(後述)。ただ、医学界や行政がCAM/IMと積極的に取り組んでこなかったため、さまざまなCAMが野放し状態となり、いわゆる癌難民などの被害者もあとを絶たない。IMの実践には、西洋医学に加えて、さまざまなCAMの知識と実践のための倫理教育などが求められるが、そのために誕生したのが神奈川歯科大学統合医療学講座である。

## (1)わが国におけるCAMの普及率

### a. CAM取組状況(医師)

Imanishiらは医師のCAM取組状況について調査した<sup>8)</sup>その結果、1999年の時点で、実践している医師は73%で中身はほとんどが漢方であった。鍼灸、良導絡は11%、漢方や鍼灸、良導絡以外となると8%にすぎないことが判明した。その後の調査は残念ながら行われていない。

### b. CAM取組状況(一般市民)

1999年の今西らによる調査ではCAM利用率は61%であった<sup>9)</sup>。その中身を見ると、マッサージ、漢方に続いて健康食品が第3位に位置づけられた。さらに最近のYamashitaらの調査で、国民個人のCAM利用率は、スポーツドリンクなどもその中に入れた場合、76%に及ぶことが判明した<sup>10)</sup>。

## (2) わが国におけるCAM/IM教育

わが国では、臨床では漢方医学に保険診療が認められ、広く普及しているにもかかわらず、最近まで医学教育に取り入れられることはなく、中途半端な状況が続いている。

わが国には、各学会や団体による、セミナーや講習会があり(日本東方医学会、日本ホメオパシー総研、日本アロマセラピー学会、日本オステオパシー連合など)、個々の医療については別々に学ぶことができるものもある。しかし、CAM/IM 全般を学べる幅広く学べるプログラムは、神奈川歯科大学統合医療学講座のプログラムのみである。

神奈川歯科大学統合医療学講座では、統合医療の理念(<http://www.graduate.kdu.ac.jp/togoiryo/ideal/>)に沿った医療活動を将来にわたり実践し、個人への医療提供のみならず社会貢献できる人材を養成することを目標としている。

今回は CAM/IM があらためて必要であることを述べたい。

## 参考文献

- 1) Timetables of medicine, Gill Davies eds, Black Dog & Leventhal Publishers, New York, 2000
- 2) 沈再文:「気功」その歴史と現代医学における役割. 人体科学 12 (1): 1-14, 2003
- 3) 小曾戸洋:漢方の歴史. 大修館書店, 東京, 1999
- 4) Eisenberg DM, Kessler RC, Foster C, Norlock FE, Calkins DR, Delbanco TL: Unconventional medicine in the United States. Prevalence, costs, and patterns of use. N Engl J Med 328: 246-252, 1993
- 5) Eisenberg DM, Davis RB, Ettner SL, Appel S, Wilkey S, Van Rompay M, Kessler RC: Trends in alternative medicine use in the United States, 1990-1997: results of a follow-up national survey. JAMA 280: 1569-1575, 1998
- 6) Perkin MR, Percy RM, Fraser JS: A comparison of the attitudes shown by general practitioners, hospital doctors and medical students towards alternative medicine. J R.Soc Med 87: 523-525, 1994
- 7) Himmel W, Schulte M, Kochen MM: Complementary medicine: are patients' expectations being met by their general practitioners? Br J Gen Pract 43: 232-235, 1993
- 8) Imanishi J, Watanabe S, Satoh M, Ozasa K: Japanese doctor's attitude to complementary medicine. Lancet 354: 1735-1736, 1999
- 9) 今西二郎, 渡邊聡子:補完・代替医療の国内外の問題点. 医療従事者のための補完・代替医療(編集:今西二郎). 金芳堂, 京都, pp 10-25: 2003
- 10) Yamashita H, Tsukayama H, Sugishita C: Popularity of complementary and alternative medicine in Japan: a telephone survey. Complement The Med 10: 84-93, 2002